

静岡

膜構造のやわらかな曲線の屋根を特徴とする展示イベント施設「キラメッセぬまづ」は、平成10年10月、JR 沼津駅北口にオープンした。以来、3900平方メートルの空間とその使いやすさが評価され、多くの展示会・イベントなどが開催され、来場者は500万人を超え高い稼働率をあげている。

このキラメッセぬまづが平成23年3月31日に幕を降ろすことになった。ただ、それはまた同時に静岡県東部地域における初めての本格的なコンベンションセンター開設への幕開けでもある。

静岡県と沼津市は、キラメッセぬまづ跡地に会議場、展示場、宿泊施設等の機能を備えた東部コンベンションセンター整備事業を進めている。平成20年に民間から事業提案を募集し優先交渉権者と事業計画を協議してきたが、昨年11月に基本協定を締結し、施設の概要と整備スケジュールを公表した。

静岡県が整備する会議場施設は、国際会議にも対応できる1300人収容の平土間形式のメイン会議室や400人の大会議室、中小会議室12室(分割利用時17室)が計画されている。また、県内特産飲食物販売コーナーなども設けられる。

沼津市は、キラメッセぬまづの後継となる展示イベント施設と立体駐車場を整備する。展示イベント施設は、キラメッセぬまづとほぼ同じ面積の展示場を備え、キラメッセぬまづの弱点である音響や照明の改善を行い大規模な会議などにも幅広く対応できる展示場にする計画となっており、市民ギャラリーも併設するという。

また、民間事業者による約150の客室とレストランやバーなどが入ったホテルが計画されている。

これら施設全体は、平成26年夏ごろのオープン予定であるが、沼津市の展示イベント施設、立体駐車場は平成25年夏ごろのオープンを目指している。

静岡県東部地域は、県立静岡がんセンター・同研究所や国立遺伝学研究所など多くの医療健康関連の研究所・事業所が集積し、静岡県のファルマバレー・プロジェクトが推進されている。また、首都圏から約1時間という優れた位置にあり、周辺には富士・箱根・伊豆というわが国を代表する観光地を擁しており、コンベンションの開催地としての需要、可能性が非常に高い地域である。

しかし、「経済効果」はもとより、「まちづくりの促進」、「地域の賑わいの醸成」、「地域イメージの向上」、「観光振興」などが開催の効果としてあげられるコンベンションは、近年、国内・国外を問わず誘致競争が激しくなっている。

こうした競争に勝ち抜き、これらの効果を実現するためには、地域全体としてコンベンションの参加者を受け入れる体制づくりが不可欠である。

キラメッセぬまづが目指した「日本一親切な施設」を引き継ぐとともに、「ここで開催してよかった。次もここで開催しよう。」と感じてもらえる沼津らしい、静岡県東部地域らしい「日本一のおもてなし」を地域全体で提供することが重要である。

東部コンベンションセンターがオープンするまで、あと数年。官民を越えた様々な分野、業界でコンベンションセンターを活かすための主体的、積極的な取り組みが求められている。

神奈川

楽しみながら発明・発見精神を学べる企業博物館「カップヌードルミュージアム」が今年9月、横浜市中区のみなとみらい21(MM21)・新港地区に開館する。大阪府池田市にある「インスタントラーメン発明記念館」(1999年オープン)に次ぐ2館目のカップ麺博物館となる予定で、設置・運営主体の日清食品ホールディングスは年間60万人の集客を目指すとしている。

正式名称は「安藤百福発明記念館」。インスタントラーメンの発明者の安藤氏が抱いていた「子どもたちに発明・発見の大切さを伝えたい」という思いを具現化する施設になる。敷地面積は約4000平方メートル。地下1階、地上5階建て、延べ床面積約10000平方メートルの建物の外壁は赤れんがとガラスを組み合わせ、伝統と革新を表現するという。

大阪で人気の「チキンラーメン手作り体験工房」と「マイカップヌードルファクトリー」は、横浜にも目玉施設として導入する。工房では、小麦粉をこね、のばし、蒸した後に味付けし、瞬間油熱で乾燥する工程が体験できる。ファクトリーでは、自分でデザインしたカップに麺とスープを入れ、好みの具材をトッピングして、「世界で一つ(実際には5460通り)のカップヌードル」が製作できる。

また、安藤氏が1958年、試行錯誤の末に世界初のインスタントラーメンを発明した「研究小屋」も、大阪と同様に忠実に再現する。NHKテレビの朝ドラにも登場した、すき間風が吹き込む木造平屋の建物に厨房器具を並べた質素な「小屋」には、特別な設備がなくても、知恵さえあれば優れた発明が生み出せるというメッセージが込められる。

横浜には、大阪の約3倍の床面積を生かして、カップ麺の製造工程を“体感”できる遊具施設「カップヌードルパーク」を新設する。巨大な工場の中で、子どもたち自身がカップヌードルの麺となり、製麺からベルトコンベヤーで出荷されるまでの製造工程を全身で体験するという趣向。所要時間は約30分。



横浜にも導入される「マイカップヌードルファクトリー」(日清食品HD提供)

楽しみながら発明精神学ぶ
横浜・MM21地区にカップ麺博物館
日清食品HDが今年9月開館

また、安藤氏が麺のルーツを探る旅の中で出会った、世界中のさまざまな麺を味わえる飲食施設「ワールド麺ロード」も新たに開設する。アジアのナイトマーケットをイメージした空間で、ラーメンに限らない多種多様な麺を取り扱うというが、先発の「新横浜ラーメン博物館」(横浜市港北区新横浜)にとっては手ごわい競争相手になりそうだ。

このほか、新たなコンテンツとして、チキンラーメンから始まったインスタントラーメンが半世紀を経て世界的な食文化に発展していく様子を圧倒的な種類、数量のパッケージで表現した「ヒストリーキューブ」、安藤氏の思考の原点に迫る「安藤百福シアター」や「クリエイティブシンキング・ボックス」なども設ける。

MM21地区は、ビジネスセンターであるとともに、横浜の「新たな観光地」としての顔も併せ持つ。このため、立地企業の中には、三菱重工業のように企業博物館(名称は「三菱みなとみらい技術館」)を併設するところもある。「カップヌードルミュージアム」は単体だが、今後、形態を問わず集客に寄与するメセナ施設の進出が相次ぐことを期待したい。

キラメッセから東部コンベンションセンターへ



「キラメッセージ大感謝祭」のファイナルセレモニー